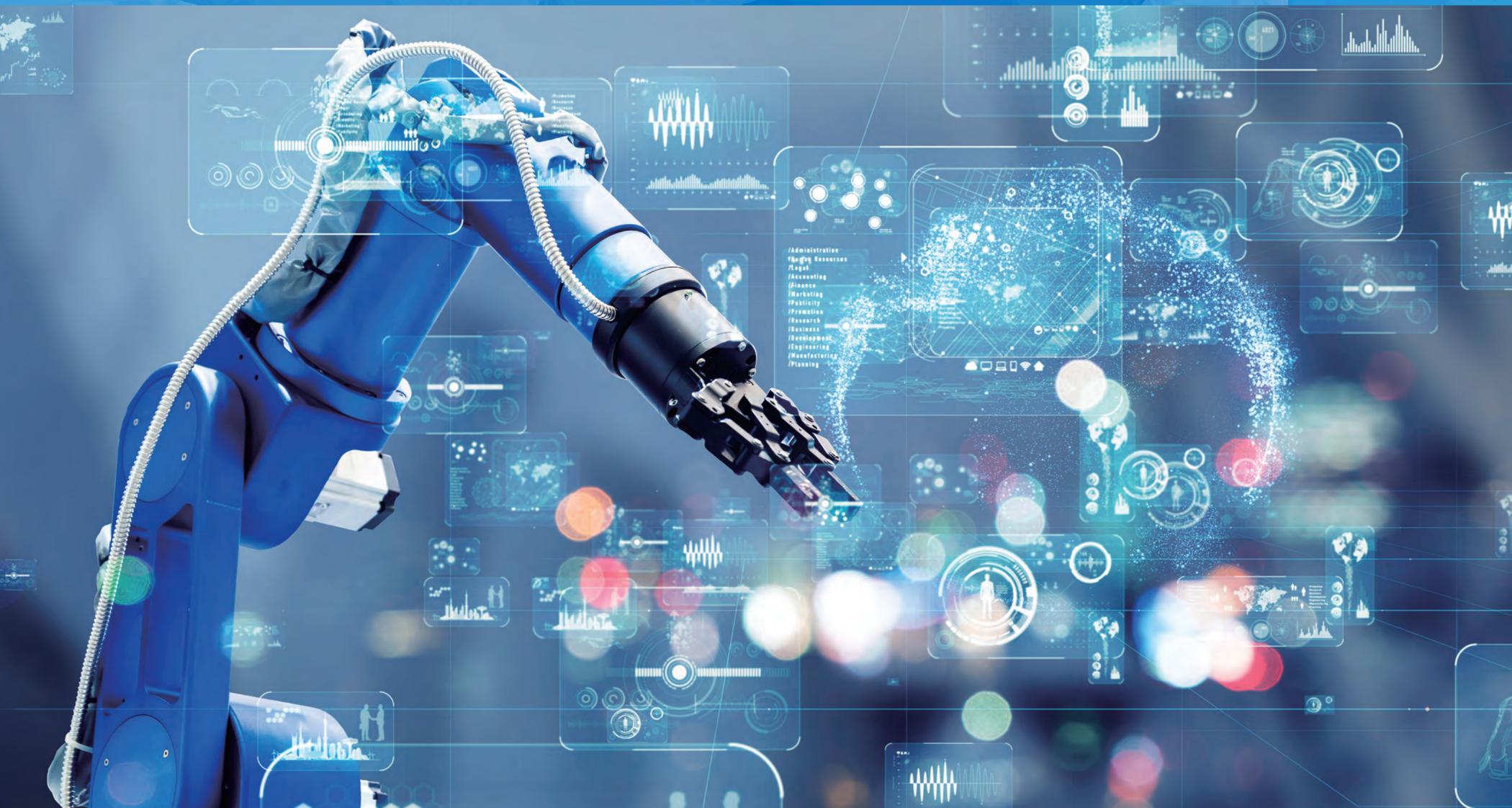


# 『ものづくりとプラットフォーム学』

～AIやロボットによる、多品種少量生産にも対応する製造工程のDX推進～

Society 5.0に向けて変革・革新が進むものづくりにおける  
現場の最新事情、そしてこれからの課題とは？



12 つくる責任  
つかう責任



情報学と複数領域を連携させ、新しい価値創造を目指すプラットフォーム学。このプラットフォーム学を扱う京都大学「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」では、プログラムの一環として毎月セミナーを開催しています。第15回となる今回は、SDGsのゴール12「つくる責任つかう責任」を見据えつつ、AIやロボットで自動化・DXが進むものづくりの工程について、プラットフォーム学的な切り口で議論することがテーマ。ロボットによる大量生産は従来から広く導入されてきましたが、多品種少量生産に向かう現在においては、多様な製造工程への的確な対応が求められます。海外ではIndustry 4.0、そして日本ではSociety 5.0といった取り組みが進むなかで、AI・ロボットを活用したものづくりの変革・革新と、その最前線におけるデジタルプラットフォームの関わりを語り合います。

イベント概要

- 開催：2022年11月17日（木）
- 時間：16:45～18:45（履修生は19:15終了予定）
- 主催：京都大学プラットフォーム学卓越大学院
- 協力：京大オリジナル株式会社／株式会社角川アスキー総合研究所
- 事前応募制／オンラインセミナー（Zoomウェビナー形式※）

※セミナーご参加には、お使いのパソコンやスマートフォンで、Zoomへ接続できる環境を事前に準備いただく必要があります。



お申し込みはこちら  
(11月16日12時締切)

## 登壇者

久保田由美恵 氏 株式会社エイアイキューブ 代表取締役社長

原田博司 教授 京都大学 プラットフォーム学卓越大学院 プログラムコーディネーター